

第37回海外子女教育セミナー

日時:平成28年5月14日(土) 10:00~16:30

会場:東京学芸大学 国際教育センター合同棟 1F大教室

対象:これから在外教育施設に派遣を希望する教員、在外教育施設派遣教員登録者、
及び海外子女教育に関心をもつ方

主催:東京学芸大学国際教育センター

■■■プログラム■■■

9:30 開場、受付開始

10:00~10:10 開会の挨拶 東京学芸大学国際教育センター長 馬場哲生

10:15~11:15 講演「海外子女教育の現状と課題」

酒井 佐知子(文部科学省初等中等教育局国際教育課海外子女教育専門官)

11:20~12:20 講義「日本人学校、補習校へ行きたいあなたへー授業作りのアドバイス」

佐藤 郡衛(目白大学学長 東京学芸大学特命教授)

12:20~13:30 昼食

13:30~16:30 派遣教員による海外での実践報告・パネルトーク「海外での生活をめぐって」

加藤 靖士 栃木県宇都宮市立田原小学校:前バンコク日本人学校

小林 利之 栃木県芳賀郡芳賀町立芳賀中学校 :前サンパウロ日本人学校

長崎 祐紀 北海道網走郡大空町立東藻琴小学校:前サンフランシスコ補習授業校

本田 千春 東京学芸大学附属国際中等教育学校:前カラチ日本人学校

【参加お申し込み方法】

お申し込みは、氏名、ご所属、返信用のメールアドレス、もしくはFAX番号を明記の上、下記宛にメールかFAXにてお申し込みください。件名「海外子女教育セミナー申し込み」とし、本文に氏名・所属をご記入ください。

* ご質問、ご不明な点につきましても、下記までお問い合わせください。

【お申込み・お問い合わせ先】

Email c-event@u-gakugei.ac.jp FAX 042-329-7722 TEL 042-329-7717、7727

平成28年度第1回JSL研修

外国人児童生徒教育に係る研修会(JSL研修会)のご案内

平成28年度のJSL研修会は、「基礎コース」「スキルアップコース」それぞれ3回の講座からなっています。1回目(5月28日)は日本語教室の運営や指導の計画、体制づくりなどについて考えます。2回目(6月25日)3回目(10月1日)は、授業づくりについて学びます。いずれも、全員で聞く講義や実践報告と、グループに分かれてのディスカッションや活動から構成されています。

① 基礎コース

今年度初めて日本語を母語としない(JSL)児童生徒に関わる方を中心に、比較的JSL児童生徒担当の経験が短い方を対象にしています。日本語教室担当者として、何を、どう考えていったら良いのか、経験豊かな講師とともに少人数のグループで考えます。日頃の悩みや不安も共有しながら、ご自身の現場・指導する子どもの実情に合わせた指導が組めるようになることをめざします。

② スキルアップコース

担当者が複数配置されている学校は、決して多くありません。全国から集まる参加者と交流し、いろいろな教室運営、多様な指導方法を学びましょう。このコースではよりよい学級・授業づくりをテーマに、ご自身のスキルアップだけでなく学校や地域でのJSL児童生徒指導全体のレベルアップについても考えていきます。

「基礎コース」「スキルアップコース」とも指導経験の長短に関係なくお申し込みいただけますが、「基礎コース」は「日本語指導で何をしたらいいの?」「私たちの役割は?」「情報も、相談するところもない!」という現場の声から生まれたもので、こうした先生方のお手伝いをすることを目的としています。

③ 管理職や指導主事の先生方のグループ

外国人児童生徒教育で、こうした先生方の役割はたいへん重要です。しかしなかなか、他の学校や地域の様子を知る機会はありません。近年は「特別の教育課程」の導入など新たな動きもあります。情報を得る場、情報交換の場としてご活用ください。

【お申し込みについて】

各コースとも3回の講座として企画しています(1回のみ参加も可能です)。お申し込みいただいた方には、各研修の1ヶ月程度前に、メール等で参加の可否の確認と内容についてのご連絡を差し上げます。ご都合が悪くなった方はその際にお知らせください。

- 開催日時、場所

第1回 平成28年5月28日(土) 10:00~16:30 東京学芸大学(武蔵小金井) N講義棟

第2回 平成28年6月25日(土) 10:00~16:30 東京学芸大学(武蔵小金井) S講義棟

第3回 平成28年10月1日(土) 10:00~16:30 東京学芸大学(武蔵小金井) 合同棟 1F 大教室

- 参加費 無料

- 申し込み方法

メール(c-event@u-gakugei.ac.jp)またはファクス(042-329-7722)で、

東京学芸大学国際教育センター事務室宛に申込用紙をお送りください。

申込用紙はこちら([H28JSL 申込用紙 .docx](#))からもダウンロードできます。

- 第1回研修申込締め切り : 5月11日(水)
- お問い合わせ先:東京学芸大学国際教育センター 事務室

Tel. 042-329-7717、7727

メール c-event@u-gakugei.ac.jp

国際教育センター・平成28年度第1回JSL児童生徒教育研修

日本語教室の役割・担当者の役割

—子どもと現場の状況を把握する—

日時:平成28年5月28日(土)10:00~16:30

場所:東京学芸大学 N講義棟

◆ プログラム ◆

10:00 開会挨拶 馬場 哲生(東京学芸大学国際教育センター長)

10:05 はじめに 菅原 雅枝(東京学芸大学国際教育センター)

10:15 講義1 外国人児童生徒教育の現状と課題

見世 千賀子(東京学芸大学国際教育センター)

10:50 講義2 文化の中の子どもの学び

榊原 知美(東京学芸大学国際教育センター)

11:25 情報提供 「学校における日本語指導」を巡って

菅原 雅枝(東京学芸大学国際教育センター)

11:50 分科会講師紹介・事務連絡

(12:00~13:00 昼食)

13:00 分科会

コーディネーター

市川 昭彦(大泉町立 西小学校)

伊藤 敦子(小牧市立 大城小学校)

今澤 悌(甲府市立 大國小学校)

小川 郁子(都立高校非常勤講師／前・北区立稲付中学校)

濱村 久美(大田区立 蒲田小学校)

16:00 全体会

16:30 閉会

平成28年度第2回 JSL 研修

JSL カリキュラムを活かした授業づくり ①

日時:平成 28 年 6 月 25 日(土)10:00~16:30

場所:東京学芸大学 講義棟 S

◆ プログラム ◆

全体進行: 見世 千賀子(東京学芸大学国際教育センター)

10:00 開会挨拶 馬場 哲生(東京学芸大学 国際教育センター長)

10:05 「日本語での学習」を支えるために

菅原 雅枝(東京学芸大学国際教育センター)

(休憩・移動:10:50~11:00)

11:00 分科会

コーディネーター:今澤 悌(甲府市立 大國小学校)

大菅 佐妃子(京都市教育委員会)

小川 郁子(都立高校非常勤講師/前・北区立稲付中学校)

濱村 久美(大田区立 蒲田小学校)

宮廻 祐子(出雲市立 塩冶小学校)

※ 昼食は分科会ごと

15:30 全体会

16:30 閉会

LGBT 学校教育支援研修

学校のセクシュアル・マイノリティ

教育、支援研修

～誰もがありのままの自分でいられる学校のために～

2016年7月9日(土)10時～16時50分(受付9時45分)

近年、広く社会一般だけではなく、学校におけるセクシュアル・マイノリティ(LGBT)に属する児童、生徒、教員の存在が注目されています。特に、LGBTに属する児童生徒が学校に在籍しているにもかかわらず、教師や保護者はその対応について、十分な知識や経験が無いために、その対応に困り、戸惑っているのが現実です。

本研修は、主として学校の教師や教育委員会関係者等を主たる対象に、セクシュアル・マイノリティ(LGBT)の児童生徒、その保護者への学校における支援、教育、受け入れについて、基礎

知識の習得、出会いの体験、学校の環境作りなどを学ぶ機会を提供し、セクシュアル・マイノリティ(LGBT)に属する児童生徒が差別やいじめの対象とならないような学校作りに資することをめざします。

★受講対象者：教師、学生(関心を持つ一般の方もどうぞ) ★参加費無料

★プログラム(概要):

- ①学校におけるセクシュアル・マイノリティの現状(基礎講座1)
- ②セクシュアル・マイノリティとは(LGBT 理解のために)(基礎講座2)
- ③Q&A ここがわからない。セクシュアル・マイノリティとの対話(ゆっくり語りましょう!)
- ④こんな学校にしたい。学校のユニバーサルデザイン(ワークショップ)
- ⑤総括(交流)

★申し込み：参加希望者は、件名を「LGBT 研修」とし、下記の①～③を記入し、お申し込み下さい。

①氏名、②所属(学校名、教育委員会名等)、③連絡先(メールアドレス、またはファックス番号)

送付先：メール：c-event@u-gakugei.ac.jp (または、Fax:042 329 7722) ★定員 50 名

★主催：東京学芸大学国際教育センター

★協力：共生社会をつくる"セクシュアル・マイノリティ支援全国ネットワーク(共生ネット)

★後援：八王子市教育委員会

★問い合わせ：国際教育センター ☎042-329-7717 (教務室)、7727(事務室)

★会場：東京学芸大学合同棟(国際教育センター)1階 大教室

小金井市貫井北町4丁目1番1号

※JR 武蔵小金井駅北口(6番バス停)より 京王バス中大循環にて「学芸大東門」下車

東門より入構すぐ (アクセス <http://www.u-gakugei.ac.jp/access/>)

H28 年度第 3 回 JSL 研修会

JSLカリキュラムを活かした授業づくり②

日時 :2016年10月1日(土)

10:00~16:30

場所 :東京学芸大学合同棟

◆ プログラム ◆

- 10:00 開会 進行:榊原 知美(東京学芸大学国際教育センター)
- 10:00~10:10 開会挨拶 馬場 哲生(東京学芸大学国際教育センター長)
- 10:10~10:45 趣旨説明 授業づくりの前に
菅原 雅枝(東京学芸大学国際教育センター)
- 10:45~11:50 報告とコメント
- ① 実践報告 市川 昭彦(大泉町立 西小学校)
- ② コメント 大菅 佐妃子(京都市教育委員会)
- 11:50~12:00 分科会講師紹介
- 12:00~13:00 昼食
- 13:00~15:50 分科会
- 講師:市川 昭彦(大泉町立西小学校)
- 伊藤 敦子(小牧市立大城小学校)
- 大菅 佐妃子(京都市教育委員会)
- 小川 郁子(都立高校 JSL 講師・前東京都公立中学校日本語学級教員)
- 濱村 久美(大田区立蒲田小学校)
- 16:00~16:30 全体会
- 16:30 閉会

なお、前回と場所が異なるためご注意ください。

合同棟1階大教室

東京学芸大学合同棟アクセス

<http://crie.u-gakugei.ac.jp/03access/>

概要

JSL3では、JSL2の内容を受けて、参加者がやってみたこと、やってみようと思っていることをもとに、実践の内容を検討しあったり、授業づくりを進めたりします。

どうぞ積極的にご参加ください。

* 詳細は順次お知らせいたします。

* お問い合わせ: 東京学芸大学国際教育センター教務室 042-329-7717

c-event@u-gakugei.ac.jp

JSL サテライトセミナー島根

第8回多文化共生フォーラム[開催を中止しました]

第10回国際教育センターフォーラム

主 催: 東京学芸大学国際教育センター

第10回 国際教育センターフォーラム

「海外・帰国子女の多様化と教育の課題」

日 時: 2017年3月4日(土)(13時~17時)

今、海外子女、帰国子女の多様化が進んでいます。在外教育施設では、補習授業校やアジア圏の日本人学校を中心に、必ずしも日本への帰国を前提としない、国際結婚家庭の子どもや永住者の子ども等が増えています。また、海外における就学状況のデータからは、日本人学校や補習授業校に通わない子どもや、就学前の低年齢の子どもが増加する傾向にあります。それに伴って、近年の帰国子女の状況にも変化が生じているといわれています。今回のフォーラムでは、子どもの多様化が進むヨーロッパ地域の補習校の事例と、長年帰国子女を受け入れてきた、国内の2つの学校の事例をもとに、海外・帰国子女の新たな状況と教育の課題についてご報告いただきます。それをもとに、海外・帰国子女教育を捉えなおし、今後の支援のあり方について、ご来場の皆さまとともに探っていきたいと考えています。

■■■プログラム■■■

総合司会:菅原 雅枝(東京学芸大学国際教育センター准教授)

12:30~ 会場、受付開始

13:00~13:10 開会の辞 馬場 哲生(東京学芸大学国際教育センター長)

13:10~13:30 趣旨説明 見世千賀子(東京学芸大学国際教育センター准教授)

13:30~16:10 報告1~4

「補習授業校の子どもたちへの確かな学びの支援を」

江口 俊昭(ロンドン補習授業校・ダブリン補習授業校 元校長)

「日本語補習授業校と子どもたちをとりまくドイツの今ー多様化する『わが家の言語政策』」

奥村三菜子(ケルン日本語補習授業校・ボン日本語補習授業校 元講師)

「近年の帰国児童生徒と教育の課題」

山下 一枝(啓明学園中学校高等学校 教諭)

島田かおる(啓明学園初等学校 講師)

佐々 信行(海外子女教育振興財団教育相談員、啓明学園 元校長)

「中野区立第三中学校における帰国生徒への取り組み」

齊藤 久(中野区立第三中学校 校長)

指定討論 松井 智子(東京学芸大学国際教育センター教授)

16:10～16:50 パネルディスカッション

「多様化する海外・帰国子女への教育支援策をめぐって」

コーディネーター：見世千賀子

パネリスト：報告者全員、指定討論者

16:50～17:00 まとめと閉会

【報告概要】

補習授業校の子どもたちへの確かな学びの支援を

江口俊昭(ダブリン補習授業校、ロンドン補習授業校 元校長)

補習授業校で学び、学んできた子どもたちは、日本で暮らす子たちよりも恵まれた、いわゆるバイリンガルな環境下で学んでいるように見えたり思われたりしているようでもあります。しかし皆がその地の環境を生かし、生きる力につながる確かな学力を身につけてきているとは言いがたい状況があります。子どもたちの学びの場の環境が変わり、多様化してきたとも見えますが、複数言語下でいかに学力をつけていくかという課題は変わらず、学びの指導や支援のあり方が依然整理されていないということなのかもしれません。情報交換、交流手段が急速に容易になった現在ゆえ、世界各地で子どもたちを実際に支援している人たちの助け合いのネットワークができるとよいと思います。

日本語補習授業校と子どもたちをとりまくドイツの今ー多様化する「わが家の言語政策」ー

奥村三菜子(ケルン日本語補習授業校・ボン日本語補習授業校 元講師)

ドイツでは、日本にルーツを持つ子どもたちの生育環境や各家庭の言語観・教育観が多様化しており、日本語補習授業校の教育指針に対する疑問や課題が以前にも増して顕在化しつつあります。子どもを日本語補習授業校に通わせないという選択をする家庭も増える中、在外教育施設以外の民間や個人による日本語教育・日本語保持の取り組みが広がりを見せつつあります。こうした背景には、現地校と補習授業校との教育観の異なりや、各家庭と補習授業校との言語観のミスマッチなどがあると考えられます。一人ひとりの子ども・一つひとつの家庭の思いに日本語補習授業校はどのように応えていくことができるのでしょうか。その意義や求められる役割について、改めて見直す時期に来ていると思われれます。

近年の帰国児童生徒教育の課題

山下 一枝(啓明学園中学校高等学校 教諭)

島田かおる(啓明学園初等学校 講師)

佐々 信行(海外子女教育振興財団教育相談員、啓明学園 元校長)

啓明学園では、国際学級開設(1972年)当初より、一人一人の子どもを支える教育を目指してきました。国際学級システムの対象には、帰国生に限らず複数言語、複数文化の環境にある子どもが含まれま

す。初等学校(小学校)では、日本での生活経験のない高学年の帰国児童、日本生まれで多言語環境にある低学年の児童が増加しています。中学・高校でも保護者の勤務に伴って海外に滞在した帰国生は半数程度で、そのほかは、社会の国際化・多様化に伴う様々の理由で、複数言語の環境で生育することになった子どもたちです。帰国生教育については最先端にあり続けている学校現場の視点で、これからの学校に何が求められるかを展望してみたいと思います。

中野区立第三中学校における帰国生徒への取り組み

中野区立第三中学校 校長 齊藤 久

昭和49年、当時の文部省から海外帰国子女教育研究協力校に指定されて以来、約40年間にわたり帰国生徒を受け入れてきた実績がある伝統校です。本校の帰国生徒対応の取り組みについて紹介いたします。

平成29年2月現在43名の帰国生徒が在籍しています。これは全校生徒の23%にあたります。43名の生徒の中には、中学校で初めて保護者の祖国である日本に帰国し、日本語は挨拶程度しかできない生徒が数名います。帰国生徒の1番の不安は、授業についていけるかどうか、友達ができるかどうか、です。その不安を解消し1日でも早く日本の学校環境に順応してもらえるように全校体制で受け入れをしています。

【参加申し込み方法】

申し込みは、氏名、ご所属、返信用のメールアドレス、もしくは FAX 番号を明記の上、下記宛にメールか FAX にてお申し込みください。

件名「国際教育センターフォーラム申し込み」とし、本文に氏名・所属をご記入ください。

* 申し込み締め切り:3月2日(木)

《 席に余裕がありますので、お申し込みなしでも、当日ご参加いただけます》

* ご質問、ご不明な点につきましても、下記までお問い合わせください。

* 詳細は、随時ホームページに掲載します。

【お問い合わせ先】

東京学芸大学国際教育センター 教務室、または事務室

TEL.042-329-7717, 7727 FAX.042-329-7722

メール c-event(@)u-gakugei.ac.jp ※(@)を@に置き換えてください。

〒184-8501 東京都小金井市貫井北町4-1-1

